

▼アストモリジン配合腸溶錠 [内] <2021年3月販売中止>

【重要度】 【一般製剤名】特徴参照 【分類】腸溶性・遅効性喘息治療剤

【単位】▼錠

【常用量】1～2錠/日

【用法】分1～2

【透析患者への投与方法】減量する必要はないと思われるが、透析患者の投与方法に言及した文献なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】減量する必要はないと思われる (5)

【特徴】1錠中、プロキシフィリン（キササンチン系）150mg、塩酸エフェドリン20mg、フェノバルビタール20mg配合。腸溶性のため遅効性。気管支平滑筋に対する弛緩作用及び鎮痙作用は、プロキシフィリン及びエフェドリンの協力作用で、フェノバルビタールは、プロキシフィリン及びエフェドリン塩酸塩の中樞興奮作用を抑制（ラット）(1)

【主な副作用・毒性】TEN、呼吸抑制、過敏症、睡眠障害、めまい、脱力感、振戦、心悸亢進、動悸、胃腸障害、肝障害、頻尿、排尿困難、血液障害、クル病、骨軟化症、発熱など

【TDMのポイント】TDMの対象にはならない

【相互作用】フェノバルビタールによりCYP3Aが誘導されるため注意 (1)

【更新日】20200704

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。